

4. ワークショップの進め方

<ワークショップの進め方>

各ワークショップは<導入><展開><まとめ>の流れでできています。ワークショップのねらいや展開進め方の例はワークショップごとの進行マニュアルに記載しています。参加者の状況や人数、使用する場面や時間、場所等にあわせて進め方を工夫してください。

① 導入

ねらいの共有、アイスブレイク等 (10分) (目的を共有し、雰囲気を和ませる)

- ねらいの確認、共有
進行マニュアルの枠内の内容を参考に、ワークショップのねらいや内容を参加者にきちんと伝えましょう。
- アイスブレイク (P.7を参照)
初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えを話せる雰囲気作りを行いましょ。グループを作ることもできます。
- ルールとマナーの説明
アクティビティ (主たる活動) を始める前に、P.6の<確認事項>の3つのキーワード (参加、尊重、守秘) を参加者とともに必ず確認しましょう。



② 展開

アクティビティ (35分) (主たる活動)

- 進行マニュアルを参考に、ワークシートに参加者自身の思いを記入してもらったり、グループで意見交換を行ってもらったりしながら楽しく話し合いを進めましょう。



③ まとめ

ふりかえり (15分)

- 学習で気づいたことを参加者個人やグループでふりかえってもらいましょう。他の人の感想を聴くことにより、新たな気づきが生まれます。



< 確認事項 >

参加

積極的に参加しましょう。

自発的に話合いに参加しましょう。特に、しっかり聴く姿勢を心がけるようにしましょう。もちろん、内容によっては「話さない」「パス」という選択も可能です。

尊重

一人一人の考えを尊重しましょう。

参加者一人一人の育った家庭環境がちがうので、子育て・家庭教育に関する考え方や意見は違って当然です。どのような意見や発言も批判や否定をしないで傾聴しましょう。参加者一人一人の考えや思いが尊重されることで、安心して話し合うことができます。

守秘

参加者の個人的な情報は守りましょう。

お互いの信頼がなければ話はできません。参加者個人の情報は、その場において帰り、他人に話さないようにしましょう。

< 留意事項 >

< 事前準備 >

- ・参加者のニーズをしっかりと把握し、ワークショップを選択しましょう。

< 当日の進行 >

- ・参加者一人一人を尊重し、安心して参加できるようにしましょう。話しすぎている人や孤立している人、傍観者はいないか気をつけましょう。
- ・一人一人の発言に耳を傾け、プログラムの進行に生かしましょう。
- ・参加が困難な人には「見るだけでもいいですよ」など肯定的な声かけを行いましょう。
- ・アイスブレイクで自己紹介を行っていない場合は、ワークショップに入る前に、簡単な自己紹介を必ず入れましょう。自己紹介はつながりを作っていく上で大切なものです。「つながりを作る」というねらいをもって取り組みましょう。
- ・グループでの発表は、発表順や発表者を指定するとスムーズに行われます。
(例)「**右前の方から時計回りで紹介してください。**」
「グループで出た意見を各グループの**左後ろの方**が紹介してください。」
- ・「ふりかえり」の時間はしっかりととりましょう。各グループ内でのふりかえりだけではなく、抽出グループを使った、全体でのふりかえりなど内容や時間にあわせて工夫しましょう。

< グループのつくり方のポイント >

- ・グループは4人程度が最適です。4人に近い人数でグループを作りましょう。
- ・ゲームでシャッフルして、知り合いがかたまらないようにしましょう。

～してはいけないこと～

- ・参加者に発言を強要したり、故意に一部の人だけの意見を聞くこと
- ・参加者の発言を批評したり、自分の意見を押しついたりすること
- ※このワークショップには、正解があるわけでもなく、無理に解答を導き出すものでもありません。
- ・プログラムの中で知った参加者個人の情報を他人にもらすこと

